

天文ハイキング [IV]

那須西原基線をたずねる

国鉄の西那須野駅前で塩原温泉行きのバスに乗ると、約15分で『千本松』に着く。バス停前の道路わき、草地試験場正門前に、草で覆われた直径2mほどの円形の塚がある。明治の始めに設置された、那須西原基線の北端点がここにある。

明治20年代の頃、ここに朽ちて崩れかけたやぐら(測標)があったという。土地の人々の呼び名「観象台」はまた、この地名にもなっていた。1941年、西那須野町の関係者が立会って発掘したとき、地下に石材で囲んだ、1坪ばかりの室があって、中央に測量の基点と認められるみぞがあった。そこで、元に復し、土を盛って保存することになった。

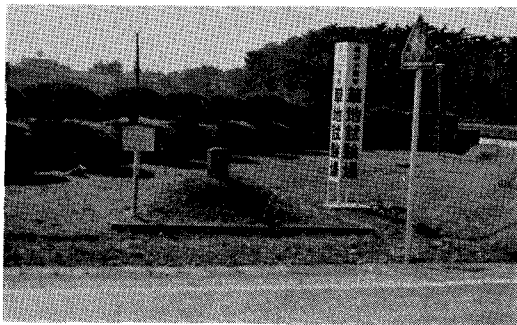
内務省地理局が関東地方に大三角測量を実施するに当り、那須西原に最初の基線を設けた。1878年4月~6月にヒルガード製4m鋼桿基線尺を用いて2回測定し、基線長として10628.310589mを得た。

北端点から南々東に縦道と呼ぶ真直な道路があり、その先に南端点がある。大田原市親園上ノ原、小沼智氏の

所有地内にあって、12年前に発掘した時の記録によると、石室は深さ0.535mの半地下式に大谷石を積んだ、内辺1.826mの正方形、基礎はコンクリートで、石室の中央に観測の穴(端点を示す鉄棒を垂直に支えた穴)があけてあった。野崎駅の東3km余の所である。

1878年10月、南端点の仮設観象室と東京葵町の地理局との経度差を電信法で、また、緯度をタルコット法で観測が行われた。その結果は、当初三角点の座標計算の基本とされた。

北端点は、「観象台跡」の名で、西那須野町文化財保護委員会が史跡に指定したが、南端点の方は、土砂の置き場に放置され、覆いの石板もずれたままになっていた。保存のための早急な処置が必要である。(武石信之)



◇4月の天文暦◇

日	時	記	事
2	23	火星	合
5	5	朔	
5	6	清明	(太陽黄経 15°)
6	4	月	最近
7	18	金星	外合
11	20	上弦	
13	9	冥王星	衝
19	17	望	
20	13	穀雨	(太陽黄経 30°)
21	1	月	最遠
27	19	下弦	
28	2	水星	外合

◇4月の日月惑星運行図◇

